

モデル事業名	なはまちつながるプロジェクト
活動団体名	NPO 法人まちなか研究所わくわく
ホームページ	<a href="http://www.machiwaku.com/">http://www.machiwaku.com/</a>
所属/ 担当者名	宮道喜一
連絡先	098-861-1469 office@machiwaku.com
活動地域	沖縄県 那覇市中心市街地

### ● 活動地域の概要

国際通り・第一牧志公設市場といった那覇市中心商店街を取り巻く5つの小学校の小学校区エリアが本事業の主な対象地域である。この地域は、戦後の闇市から広がった商業地域で、旧・那覇市中心市街地活性化基本計画の重点施策地域におおよそ含まれ、直径約2kmの円の中に覆われる範囲であり、人口約2万4千人、世帯数約1万2千人(2006年現在)の地域である。この数字からも単身世帯や子どものいない世帯が多いと推察でき、高齢者世帯の増加と居住人口の減少があり、空洞化が起こっている地域である。また、当該地域の自治会加入率は、那覇市内 25.2%であるのに対し 10.4%と低く、自治会空白地区が多い。通り会・組合などの商店街組織や PTA などの学校関連組織など地域組織はあるものの、地域を一体的に考えて取り組みを行っていきける地域ネットワーク組織はない。

※本事業では、対象エリアの中でも特に公設市場等を取り巻く中心商店街エリアを「マチグワ」と呼ぶ。



【那覇の位置】



【中心市街地 (直径2kmの円にほぼ収まる)】



【商店街に増殖する土産物店】

### ● 活動地域の課題

■『現在』のつながりは希薄 事業者と居住者・地元買い物客とのつながり：商店街は観光客をターゲットとした店が増え、地元買い物客と商店街とのつながりが切れてきている。この現象は、大切な地域資源を失うということにつながっている。

地域内の人同士・組織同士のつながり：自治会空白地区が多く、自治会があっても加入率は低い。また、通り会・組合などの商店街組織やPTAなどの学校関連組織など地域組織はあるものの、組織同士が連携し合って、地域課題解決への取り組みを行うというネットワークはない。

■『過去』を活かすことができない 地域外専門家とのつながり：これまで地域外から数多くの専門家（行政関係者・研究者・事業者・マスコミ・文筆家など）が入って調査研究・取材等が行われ、様々な未来像が描かれたり、語られたりしてきたが、取り組みを積み上げられず、未来を描きにくい状態となっている。

■『未来』へ地域への愛着・誇りをつなげない 子ども・子育て世代とのつながり：現在の30代、40代の子育て世代は、地域へ訪れる機会も減り、愛着が薄れている。そのため、その子ども達も同様である。しかし一方で、この地域にはまだ「自分たちがまちをつくった」という誇りを持つ戦後復興を担った方々が多くいる。

### ● 活動の内容

・平成20年度

- 「まちなかWeb」<http://machigwa.net/>：4つのまちなかに関わる情報ブログのポータルサイトの構築と情報更新。
- 地域情報誌「まちなか現在」：配布エリアを限定した紙媒体の情報誌。4回発行。発行部数4万部。
- マチグワ楽会：地域内外の調査・研究・イベントなどの活動取り組みの情報共有と活用を目的に第1回を開催。
- まちなか資料館：那覇市施設「にぎわい広場」を活用し地域情報集積の拠点を整備。

・平成21年度

- 「まちなかWeb」<http://machigwa.net/>のリニューアルと継続運営
- 第2回マチグワ楽会の開催：マチグワ楽会の組織化を行い、楽しみ、つながり、深めるをテーマに第2回マチグワ楽会を開催準備中。
- まちなか資料館のリニューアルと継続運営：10月にリニューアルオープンし、毎月1回の企画展を開催しながら、マチグワの課題に向き合い、提起する情報発信を行う。

● **活動の成果**・平成20年度

商店街組織や地縁組織、学校組織、企業などの地域組織による活動情報などの現在・過去の地域情報収集・発信を行うことを通じて、地域内がつながれるきっかけづくりを行う仕組みができることを目指し取り組み、その仕組みができた。

地域情報を収集し、様々なメディアを通じて地域内の人々に向けて丁寧に情報発信をすることで、その情報は受け取られる。そうすることで、地域内に暮らす人々同士がお互いの存在に気づき、刺激し合い、アクションにつながっているように感じられる。また、「情報を知っている」「隣の人間の存在を知っている」ということは、地域の中で暮らしていく上での大きな安心感につながっていることがわかった。不安を感じていると、発想自体がネガティブになり、地域の課題ばかりが目が行き、不平不満を述べるだけになるという傾向がある。安心を感じていると、発想がポジティブになり、次への前向きなアクションにつながるのではないかと感じる。

「情報」は目に見えないものであるが、それをできるだけ目に見えるようにし、届けることで、気づき、学び、発想が広がり、自発的なアクションにつながることで実感できた。当会のような中間支援組織の役割として大切な取り組みは、まず地域の人々に「地域の情報を届けること」であることが再確認できた。



第1回マチグワール楽会の本会場

● 平成21年度（現在の活動状況）

○「まちなかWeb」<http://machigwa.net/> のリニューアルと継続運営  
まちなか資料館のページを新設し、資料館と連動した情報発信にリニューアルを行った。【記事総数 46】

○第2回マチグワール楽会の開催

実行委員会形式だった第1回目より、中核となったメンバーを中心にマチグワール楽会の組織化を行った。楽しみ、つながり、深めるをテーマに「マチグワール防災部会」「地域資源の発掘と継承部会」の立ち上げの他に「食とマチグワール」や「戦前から継承されるマチグワール文化」、「まちウォーク」などのオプションプログラムも企画。第2回マチグワール楽会：2010年2月19日20日21日（予定）

○まちなか資料館のリニューアルと継続運営

ー10月1日 まちなか資料館リニューアルオープン

ー企画展の開催（10月マチグワール防災／11月さようなら那覇市庁舎／12月マチグワールの移り変わり／1月1・17 防災とボランティアの日（地元大学、NPO、商店街との連携企画））

ーマチグワールに関わる資料の蓄積

・地域の年配の方からの資料提供

【来館者数 788 人（2009 年 10 月～12 月の 3 ヶ月）、月平均 262 人、日平均 8-9 人】  
来館者は 30 代、50 代の方が比較的多い。地元の方だけでなく、観光客も訪れる。またよく話しかけてくださるのは 60-70 代の方で、展示の古い写真などをきっかけにご自身の個人史を語ってくださることもある。



11月12日：任意組織「マチグワール楽会」設立総会の様子



10月1日：まちなか資料館リニューアルオープン

● **今後の課題及び展望**

○課題

・多様な人やモノが行き交うマチグワールにおける、つながりの単層化や今あるこれまでのつながりが見えなくなっている現状が見えてきた。

・第一公設市場の建て替えやにぎわい広場の今後の活用など、マチグワールの更新や変化が進んでいく中、未来のマチグワールについて話す開かれた場の必要性が見えてきた。

・資料館という場があり、そこに常駐するスタッフがいることで、人が訪れる。戦後何もなかったところから生まれたマチグワールにおいて、生活者の視点で見た歴史の生き証人である方々のオーラル・ヒストリーを記録する重要性は高い。

○展望

・マチグワールを訪れる変化や課題、未来について議論していける開かれた場の実現。マチグワール楽会の継続・自立した運営の構築。

・マチグワールに特化した中間支援機能を持つ組織体の育成。まちなか資料館の継続設置を模索。

ー資料館：来館者を待つだけでなく、体験型の展示やこちらから出向けるプログラム・ツールの開発。子どもも楽しみながらマチグワールを体感できる場へ。

・マチグワールにおける商業者と生活者の一つ一つの具体的なつながりの見える化。今あるつながりが見えるように、必要なつながりを創り出すことで、マチグワールに関わる人・組織の多層化を目指す。